

平成 26 年度第 1 回浜松創造都市推進会議 議事録

日 時：平成 26 年 4 月 16 日（水）午後 2 時 00 分～午後 2 時 50 分

場 所：浜松市役所本館 5 階 庁議室

出席者：根本敏行会長、寺田賢次副会長、齋藤慎五委員、杵屋英夫委員、桧森隆一委員、安形秀幸委員、海野敏夫監事、川嶋朗夫監事
（オブザーバー）

影山伸枝創造都市推進担当課長、石塚良明国際課長、瀧下且元産業振興課長、石川淳観光交流課長、鈴木三男文化政策課長補佐（森田孔二文化政策課長代理）

報道関係：2 人

傍聴者：なし

事務局：影山担当課長、影山副主幹、宮木、辻、外山、藤谷

1 開会

（事務局 影山元紀）

ただ今から、第 1 回浜松市創造都市推進会議を開催します。最初に会議開催にあたりまして、浜松市企画調整部長の寺田よりご挨拶申し上げます。

2 挨拶

（寺田委員）

こんにちは。委員の皆様、お忙しい中、浜松市創造都市推進会議にご出席いただきましてありがとうございます。ご案内のように、平成 19 年度から本市におきましては、総合計画の中で創造都市の将来図を見据えてまちづくりを展開してまいりました。とは言いますものの、それまで道筋となるものが無かったものですから、平成 24 年度に市民活動、市民の創造的活動を活発化するエンジンとして、本市の音楽・ものづくり・多文化共生の 3 つの特色を活かした創造都市推進のための基本方針を策定いたしました。

創造都市の取り組みの中でも象徴的なものといえるユネスコのネットワークに、平成 23 年度に仮申請をしたわけですが、事務局の審査の中断や加盟手続き等の変更もあり、この 2 月に正式に加盟申請をすることができました。

これまでは、創造都市推進会議におかれましては、創造都市の基本方針の策定、あるいはユネスコの加盟申請にあたっての政策形成に力添えをいただけてきましたが、今後は一歩踏み込んでその方針を具現化し、事業展開の拡充を図る段階に入ってくると思います。

そういったことから、いままで会議体でございました創造都市推進会議を、情報の収集や発信などを行う組織体としての機能を備えまして、産学官一体となって取り組んでいく新たな組織として立ち上げることになりました。

具体的に審議いただく内容は、創造都市に係る政策提言や、施策の推進、進捗管理をお

願いますのでございます。

そして、必要に応じ、有識者の皆様方にご協力をいただきながら分野ごとに専門部会を設けて、計画に基づいた具体的な企画提案などを行っていただくということも考えております。

結びになりますけれども、現総合計画は、今年度で最終年度になります。今、この会議にご出席いただいております根本学部長さんにもコーディネーター役として大変なご尽力をいただきまして、市民の皆様方のご意見も集約しながら、次期総合計画策定をしているところでございます。この計画は、平成 27 年度から 30 年間の計画でございまして、「浜松市未来ビジョン」という名称です。新たな総合計画の中でも、創造都市については、将来の都市像として引続き堅持していくという所存でございます。

30 年後の創造都市の理想の姿にむけて積極的な事業展開を図っていきたいと思っておりますので、委員の皆様におかれましてはご多忙の中でございますけれども、ご指導、ご協力を賜りたいと思っております。宜しく申し上げます。簡単ですがご挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。

3 委員紹介

(事務局 影山元紀)

議事に入るまえに、委員の皆様をご紹介いたします。名簿記載順に、静岡文化芸術大学から根本敏行委員、海野敏夫委員。浜松市文化振興財団から齋藤慎五委員。浜松商工会議所から空屋英夫委員。浜松創造都市協議会から桧森隆一委員。浜松市から寺田賢次委員、川嶋朗夫委員、安形秀幸委員。オブザーバーとして、浜松市企画課創造都市推進担当課長・影山伸枝、国際課長・石塚良明、文化政策課長・森田孔二に代わり、課長補佐・鈴木三男、産業振興課長・瀧下且元、観光交流課長・石川淳。なお、本日は本市の創造都市アドバイザーである同志社大学特別客員教授の佐々木雅幸先生に出席をいただいております。

続きまして、配付している資料の確認をさせていただきます。

(事務局から配付資料確認)

4 議事

(事務局 影山元紀)

次第にしたがいまして、第一号議案について、事務局の宮木から説明します。

(事務局宮木より配布した参考資料及び資料 1「浜松市創造都市推進会議規約案について」の説明)

(事務局 影山元紀)

推進会議規約案についてご質問はございますでしょうか。

(異議なし)

宜しいようですので、1号議案 規約についてご承認いただけますでしょうか。ありがとうございます。異議なしということで、ご承認いただきました。

続きまして、2号議案です。ただいま承認いただいた規約第6条に基づき、推進会議の会長は委員の互選となります。どなたか、会長にご推薦いただく方はいらっしゃいますでしょうか。

(桧森委員)

はい。この分野で造詣の深くて、浜松市の施策に詳しい根本先生にお願いしたらどうかと思います。

(事務局 影山元紀)

桧森委員から、会長に根本委員を推薦いただきましたが、ご意見ある方いらっしゃいますでしょうか。

(異議なし)

皆様にご承認いただいたということで、根本委員に会長にご就任いただけたらと思います。どうぞ宜しくお願いします。

それでは、会長にご就任いただいた根本会長にご挨拶をお願いします。

(根本会長)

ご推薦いただいて会長という大役をおおせつかります。改めて宜しくお願いします。会のスタートに当たって、話題提供を一言申し上げようかなと思います。のっけからいきなり、バッドニュースとグッドニュースをと思っています。

悪いほうから申し上げますと、私もこの大学に参りましてから十年、私なりに研究等をしてまいりましたが、やらまいかの街、ものづくりを基盤にして発展してきた浜松にあって、ものづくり分野のパフォーマンスが少し苦しい傾向があるのかなと思います。客観的な数字を見ますと、第二次産業の生産額がなかなか思うように伸びていない。あるいは、大事な工場が外に移転することが相次ぐなど心配事があるわけです。それに対して、創造都市というのは、文化・芸術が中心でございますけれども、やはり広く豊かな将来の浜松のために資するものだと承知しております。

グッドニュースというのは、既に音楽創造都市のネットワーク加盟都市でもあるポローニャ市と浜松市が、都市間交流協定を結びます。実は、創造都市のためということでもなかったのですが、静岡文化芸術大学もポローニャ大学と交換留学・交換研究協定が結び、追い風が吹いているのかなと思います。私の大学は2000年にできて、まだまだひよっこですけれど、ポローニャ大学はヨーロッパで最も古い大学のひとつです。見劣りがするのではないかと声もありましたが、浜松をポローニャに紹介するときには「日本の近代産業の擁卵地である、もちろんスズキ、ヤマハだけでなく、ホンダもトヨタも全部遠州地域が発点。ポローニャもオートバイとか自動車、そして楽器あるでしょ」と話をしました。また、「これからイタリアも高齢化社会になり、産業が成熟していく。こういうときに、文化の産業っていいよね。日本には定年があるっていうのを聞いている。ヨーロッパには無

い。日本には定年があっても、生涯活躍できるのは文化の産業ではないか」というような話もいたしました。

いろいろな産業構造の転換点に立っていると思いますけども、浜松にとっては非常に追い風が吹いていると思います。改めてよろしくお願いします。

(事務局 影山元紀)

ありがとうございます。ここからの進行については、規約第 9 条に基づいて、根本議長をお願いします。

(根本会長)

本日、規約に基づいて副会長と幹事を会長が指名することとなっています。恐れ入りますが、副会長を寺田委員にお願いできますでしょうか。よろしくお願いいたします。それから監事 2 名として、海野委員、川嶋委員にお願いいたします。では、今後の運営におきましては、ひとつよろしくお願いします。

続きまして、3 号議案に入ります。3 号議案からが本題かと思います。このテーブルは、事務局からありましたとおり、創造都市の具体的な取り組みをしていく、ということもあり、市で予算措置もとられております。官民一体となって事業を推進していくためにこの会において年度計画・予算計画についてお諮りする、それが第 3 号議案になります。それでは事務局説明をお願いします。

(事務局 影山元紀)

それでは、第 3 号議案について説明をさせていただきます。

(事務局影山元紀より資料 2「平成 26 年度浜松市創造都市推進会議事業計画(案)について」の説明)

1 点目は、推進会議の開催です。推進会議は年 5 回を計画し、その中でアクションプログラムを策定することが大きな目的です。ユネスコへの申請書の記載内容と創造都市推進のための基本方針にのっとり策定します。

2 点目は調査研究事業で、ユネスコ創造都市ネットワーク連携の促進と、他の創造都市との連携・交流についての調査研究をします。

3 点目はホームページ作成事業です。規約 3 条の事業に記載されている創造都市浜松の情報発信について、国内外に向けた情報発信を行います。

予算案については、市からの負担金 300 万円となっており、支出については、3 つの事業費として 276 万 5 千円で行っていきたいと考えています。

(根本会長)

ただいま事務局のほうから 26 年度の事業計画と予算案について説明をいただきました。委員の皆さんから、意見・ご質問等いかがでしょうか。

(異議なし)

宜しいでしょうか。今日は全体の枠組と、3件の事業・予算についてご説明いただきました。実際には、詳しい中味のことの方が大事かと思しますので、本日のところは宜しければこの枠組でこの取り組みを進めるということでご賛同いただけますでしょうか。

(異議なし)

宜しいですか。ありがとうございます。では、3号議案の本年度の事業計画並びに予算案につきまして承認をいただきましたので、(案)が取れることになるかと思います。

5 その他

(根本会長)

本日は、この会の発足と、事業計画の承認というのが一番大きな案件かと思います。ただ、皆様お忙しい中、せっかくご参集いただきましたので、皆さんから一言、一人1〜2分くらいずつ、浜松の創造都市の取り組みにむけて何かお言葉をいただければと思います。

(安形委員)

産業部長の安形と申します。産業部の立場からしますと、創造産業という言葉がございませうけども、先ほど会長からありましたように、やらまいか精神に支えられて、ものづくりが浜松地域を牽引してきたのですが、今、非常に苦戦をしています。

我々も産業政策をどうしていくかということで、新産業を育てて集積しようとしておりますけども、この新産業の創出あるいは集積と創造産業というものは、恐らくリンクしてくるのかなと思っています。新産業の創出というものは非常に時間がかかると思っておりますけども、具体的にこれからどのように、創造都市を目指して、創造産業を育成し、集積をし、人材にここに集まっていただくような都市にしていくかというようなことを具体的にこの推進会議の中で皆さんと色々ご議論させていただいて、考え方をまとめていきたいと思っています。宜しくお願いします。

(根本会長)

どうもありがとうございます。続いて、川嶋委員。

(川嶋委員)

文化振興の担当として、音楽以外にも文化財やスポーツなどを所管しております。特にこの音楽専門部会につきましては私どもの部が所管させていただきます。

企画課は絵を描くところで、実行部隊は私どもというふうに考えております。この資料2に書いてありますとおり、27年度には文化的多様性に関する国際会議等、創造都市ネットワークに恥ずかしくないような事業について考えていきたいと思っておりますので、是非皆様からのご助言をお待ちしております。宜しくお願いします。

(根本会長)

はい、ありがとうございます。では、寺田委員。

(寺田委員)

先ほどの挨拶の中で申し上げましたけれども、今後、個別の事業の拡充を図るとともに、積極的な事業展開を図り、創造都市推進の加速をしていきたいと考えております。宜しくお願いします。

(根本会長)

はい、ありがとうございます。では、齋藤委員。

(齋藤委員)

先ほど、川嶋担当部長からもお話ありましたとおり、市の文化政策課と私どもの財団がセットになって音楽を中心とした文化事業を展開しておりますので、計画策定に当たってはどのようなものが浜松で実現可能かという観点でご意見を申し上げたいと思っております。

国際的な関係でいえば、劇場ではプラハの国立劇場とワルシャワの国立劇場とも交流がありましたし、この度はボローニャの歌劇場とも連携ができます。ボローニャには音楽博物館もあるということで、その観点からもいろいろな交流が図れる可能性があると思っております。宜しくお願いしたいと思います。

(根本委員)

はい、ありがとうございます。では、空屋委員。

(空屋委員)

浜松商工会議所の空屋といいます。基本的には、安形部長さんと同じような考え方になるかと思うのですが、根本先生に座長をやっていただいた都心未来創造会議にも出席をさせていただきました。30年後に人口が60万になるというような推計も出ている中で、そちらの会議でも、やはり人口が増えるような政策を打っていかなくちゃいけないじゃないかというようなお話がありました。人が集まる都市、ビジネスが成立する都市、そして市民の生活が豊かになるような都市を目指し、今回少しでもお役に立てばと思っております。

新産業をというお話がございましたけども、地域をひっぱってきましたのはやはり輸送用、自動車産業です。10年後には全世界の販売台数が一億台になるとか、いや、もう5年後には一億台になるという話があります。そんな中で、日本のメーカーは果たしてどんな役割を果たせるのかというようなことが色々な推計で出ておりますけども、日本が、それからこの浜松地域がこの自動車産業の中でどんな役割を果たしていけるのかというところを会議所として具体的な話ができれば、少しでもお役に立つのかなと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。

(根本会長)

はい、ありがとうございます。

私は、先ほど申し上げたことと別のことで、大学の話題を提供させていただければと思います。本学は、今年度はもう一つ、大学の地域貢献という柱を立てています。このキーワードが「クリエイティブ」と「インクルーシブ」ということ。インクルーシブは包括

的とか包摂的というふうに日本語で訳しますが、今までやってきましたバリアフリーとかユニバーサルデザインというデザイン面のこともあります。それから社会的な包摂もあります。特にいろいろな外国人の市民が活躍している地域である。そのような広い意味を込めてインクルーシブでクリエイティブな地域づくりに大学は貢献しなければいけないという柱を立てて、取り組みを始めたところです。もちろん今までもやってきたわけですが、より一層それを進めようとしています。

今は浜松まつりでラッパの音が聞こえますけど、最近、静岡文化芸術大学のまわりをお歩きになるとですね、ガムランの音が聞こえてくるのですよ。これは楽器博物館にもあります。ガムランにはジャワのものとバリのもの二種類がある。両方のガムランのセットが揃っているのが、多分全国でも浜松くらいなんじゃないかと思います。私どもの教員も、新しく来た者と開学以来の教員と入れ替わって、新陳代謝が起こっている。今申し上げた、インクルーシブな、非常に懐の深い社会を作っていこう。かつ、クリエイティブな文化と芸術を絆にして、そしてデザインを絆にして地域で活躍しようと思っているところです。本当にいい時期に思惑が一致しました。私どももやりがいのあることだと思っています。

では、海野先生。

(海野委員)

私は、静岡文化芸術大学のデザイン学部長という立場でございまして、どんな内容で皆様にご協力できるか、まだあまりイメージが沸いてないのですが。

今、大学の話が出ましたが、身近なところから、お話していきたいと思います。静岡文化芸術大学は今年の3月で10回目の卒業生を出しまして、やっとこれから皆様に色んなところで、お会いできるのではないかなと思っています。卒業生諸君が活躍してくれることを期待しています。

そんな大きなことと同時に、やはり市民を巻き込む企画が必要だと思います。その卒業生の中には、空き家を利用して空き家プロジェクトというのをやっている学生がいて、そういったことも含めて、市民を巻き込んだ企画を何か推進していきたいなと思っています。宜しくお願いします。

(根本会長)

はい、ありがとうございます。では、桧森委員。

(桧森委員)

浜松創造都市協議会という紛らわしい名前の協議会でございますが、ご承知のように、産学官、三つが創造都市の実現を目指して、頑張っていこうという団体でございます。いまだに団体の住所が静岡文化芸術大学の片山研究室内ということになっておりますけれども、私が代表理事を片山さんから引き継いでやっています。主な事業として、今、鴨江アートセンターの指定管理者として管理運営をしています。11月からはじめましたけれども、そこにたくさんの若いアーティストやクリエイターが集まっています。いろいろな交流を深めていく騒々しい場所でクリエイター同士が刺激しあうことにより、お互いに創造

性を高めていくということを仕掛けていこうと思っています。

もう一点だけお話ししたいのは、先ほど産業やものづくりの話がありましたけれども、今は大学の教員が本職ですが、私は30年以上ヤマハ株式会社に勤務しておりました。みなさんご存知のように、この申請書にも書いてあるボーカロイドは、音声合成エンジンの開発をヤマハでやっているわけです。お考え顶きたいのが、ボーカロイドという技術は真面目な技術者が浜松で開発したが、それを初音ミクにしたてたのは、札幌のクリプトンフューチャーメディアという会社だということです。なぜ浜松から初音ミクがでないのかというところが、創造都市としての浜松の今後の大きな問題になるというふうに思っております。できたら札幌ではなく、浜松からもっと現代のカルチャーとして初音ミクのようなものを生み出せると産業にも寄与するのではないかなと思っています。

(根本会長)

はい、ありがとうございます。

それでは、終了させていただきまして、進行を事務局にお戻しします。

6 閉会

(事務局 影山元紀)

はい、ありがとうございました。本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、まことにありがとうございました。第2回の会議につきまして、6月18日(水)午前10時から、この場所で開催を予定しております。宜しくお願いいたします。